

次号予告

特集 モデリング—広い視野を求めて—

モデリングの技：ゴルフスイングの解析を例として	赤池弘次
モデル学は可能か	木村英紀 (理化学研究所)
むだばなし“水とモデル”	柳井 浩
OR モデルと経済学モデル	今野 浩 (中央大学)
理論家にとっての数理モデル	小島政和 (東京工業大学)
モデルの効用	逆瀬川浩孝 (早稲田大学)
ビジネスモデリング	鈴木久敏 (筑波大学)
結晶性光ファイバの吸収率計算モデル	石渡裕政 (鈴鹿医療科学大学)
時差出勤のパラドックス	田口 東 (中央大学)
モデリング雑感	土谷 隆 (統計数理研究所)
モデリングを通して見えた世界	池上敦子 (成蹊大学)

編集後記

●長い歴史の中で、地球の平均気温は大きく変動してきたといわれている。大気構成も「数十億年」の地球サイクルで見ると、大きく変動したようだ。気温や大気だけではなく、隕石は頻りに衝突し、想像を絶する火山活動があり、大陸は離合集散を繰り返してきた。地球時計という気の長くなるスパンで考えると、地球は激しく変化し続けたということなのだろう。こう考えると「地球環境変化のダイナミズム」に対して、改めて驚愕の念を禁じ得ない。

●今月号の特集は「温暖化対策としての市場メカニズム」である。「地球レベルでの環境問題」をより合理的に解決するためには「限界削減コストがより小さい国 (or 企業) が削減すること」が全球的にみて効率

的である。これを可能にするツールが「排出権取引などの市場メカニズム」だ。排出権取引が始まれば、市場メカニズムにより資産価値が与えられ、通貨、商品、債券など同様に「価格変動リスク」に晒される。これに対処するために「リスクマネジメント手法」が要求され、金融工学など OR 的手法が活躍する世界が開ける。まさに「人為的な取組み」といえる。

●人間の営みは、地球の長い歴史を見渡せば、一瞬の出来事かもしれない。しかし、われわれは「近代文明史という一瞬」で化石燃料を一気に燃やし、CO₂濃度を急増させてしまった。今度は、このような複雑なしくみを作り、大気中の二酸化炭素濃度のコントロールに取り組むという「壮大な社会実験」に今挑戦している。(高橋一喜)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 中森真理雄(東京農工大学)

委員 池上敦子(成蹊大学)、大澤義明(筑波大学)、大村弘之(日本電信電話株)、岡田 勇(創価大学)、岡野裕之(日本アイ・ビー・エム株)、住田 潮(筑波大学)、高橋一喜(東京ガス株)、高橋彰子(株NTTデータ)、田村亮二(キヤノンシステムソリューションズ株)、土屋利明(日本電信電話株)、所 健一(助電力中央研究所)、生田目崇(専修大学)、根本俊男(文教大学)、廣津信義(独日本スポーツ振興センター)、藤本 衡(東京電機大学)、松村良平(東京工業大学)、三浦英俊(明海大学)、村井雅彦(株東芝)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成 17 年 7 月号 第 50 卷 第 7 号 通巻 535 号

代表者 今野 浩

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 中森 真理雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円 (本体 924円) 年間予約購読料 11,040円 (税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (3546-1337) へ